

健康すいた21推進懇談会意見への回答

資料1-3

No.	該当箇所		所管室課回答	所管室課	
	項目	委員意見			
1	第3章 中間見直し(中間 評価)の結果	2 重要業績評価 指標の達成状況	【第2回懇談会】 医療費の削減を目標とするのであれば、健康寿命の延びが平均 寿命の延びよりも少なければ、目標達成とは言えないかと思 いますが、生活の質の向上とした場合どうなのか、この指標は、何 を評価する指標なのでしょう。	健康寿命は、本計画の基本目標である生活の質(QOL)の向上 を評価するための指標と考えています。	健康まちづくり室
2	第3章 中間見直し(中間 評価)の結果	分野1 くらしにとけこむ 健康づくり	【第2回懇談会】 健康に関心はあるが取り組めていない人に対しては、まずは自 分の健康状態を知ってもらい、健康に関心を持つきっかけにつ ながるよう働きかけていくことも必要だと感じています。	スーパー等、生活に身近な場での啓発等を推進し、幅広い世代の 方が自身の生活を振り返るきっかけとなるよう、取り組んでまい ります。	成人保健課
3			【第2回懇談会】 出かける場所、活動場所があることは健康維持だけでなく、仲間 づくり、地域づくりにも繋がると思います。 学ぶ機会や身近に出かける場所がある人の割合で、取組を評価 できるのではないかと思います。	次期計画策定時の参考とさせていただきます。	健康まちづくり室
4			【第2回懇談会】 若い世代が健康を意識するきっかけは、結婚する時、子供が生ま れた時等、人生の中で何か転機が訪れた時だと思います。例え ば、婚姻届や出生届を提出するタイミングで健康への働きかけや 意識付けができれば良いと思います。	妊娠届出時や出産後の妊産婦の面談時に健康状態等を確認し、 必要に応じて禁煙や栄養バランス等について保健指導を実施し ています。 吹田市二十歳を祝う式典では生活習慣病予防について、乳幼児 健診時等では、保護者の健(検)診受診の勧奨や禁煙について、 啓発を行っています。 また、LINEセグメントによる情報発信時に、年代によってメッ セージを変える工夫を実施しています。 引き続き、より効果的な情報発信の在り方について検討します。	すこやか親子室 成人保健課

No.	該当箇所			所管室課回答	所管室課
	項目		委員意見		
5	分野2 食べる		【第2回懇談会】 子供の頃の肥満は大人になってからも解消されにくく、生活習慣病の大きなリスクとなっています。本人にも自覚をしてもらう必要があるため、各学校に栄養教諭を配置し、健康な食習慣を身につけるための教育を行って欲しいと思います。	栄養教諭の定数は法律により定められており、調理方式や各校の児童・生徒数等により、配置数が決定されるため、未配置の学校もあります。 引き続き、給食だより等の配付や栄養教諭未配置校での出前授業等を実施し、健全な食習慣を身につけるための食育を推進してまいります。	保健給食室
6			【第2回懇談会】 朝食の欠食は、高校生や大学生、社会人になる等、食の自立が進む頃に増加しやすいため、高校や大学での教育やプレコンセプションケアとして、食の啓発を強化することが大事だと思います。	朝食欠食に関しては、進学・就職・結婚等のライフイベントに合わせた対策が必要と考えています。高校生が利用する場や、大学生へのプレコンセプションケアの周知等を通じて、食の啓発を行っています。 学校や職域、庁内関係室課との連携を強化し、ICTを活用した取組等、より効果的に思春期・青年期の若者に届く啓発の在り方について、検討を進めてまいります。	すこやか親子室 健康まちづくり室 成人保健課
7			第3章 中間見直し(中間評価)の結果 3 分野別の評価と今後の取組の方向性	【第2回懇談会】 朝食を自分で準備することが難しい人もいるため、資金的な援助も含めた環境整備を進めていくことが大事だと思います。	産学官連携の下、自然と健康的な食を選択できるような環境整備の取組について、検討を進めます。
8	分野3 動く・出かける		【第2回懇談会】 若い世代はロコモティブシンドロームという言葉や意味を知らないため、ロコモ予防教室への参加は少ないが、同じ内容でも、若い世代が興味を持てるような教室名にすると参加が増えます。 若い世代の参加者数を増やすには、若い世代に興味を持ってもらえる、楽しいと思ってもらえるような工夫が重要だと思います。	スポーツ教室や大学生を対象とした事業を実施する際には、若い世代が興味、関心を持ち、楽しみながら実践、継続できるようなテーマ選定や内容について情報収集する、情報発信の方法を検討する等、若い世代が参加しやすいよう、工夫していきたいと思っています。	文化スポーツ推進室 成人保健課
9			【第2回懇談会】 「⑥運動やスポーツが好きな子供の割合」は減少していますが、運動自体を嫌いな子供はそこまで多くないと思っています。いかに楽しめる機会を提供できるのかが重要だと思います。	特に子供の場合、楽しみながら自然に運動・スポーツに親しめることができるような環境づくりが必要だと考えています。スポーツ施設で開催している子供を対象としたスポーツ教室やイベントについて、広報を工夫する等、多くの方に興味を持っていただけるよう、取り組んでいきたいと考えております。 また、学校では、運動と健康の関係性が大切であると理解する児童・生徒が増加するような取組を推進するとともに、小学校低学年から9年間を見通した系統立てた指導の充実を図ることが必要と考えています。	文化スポーツ推進室 学校教育室

No.	該当箇所		所管室課回答	所管室課
	項目	委員意見		
10	第3章 中間見直し(中間評価)の結果 3 分野別の評価 と今後 の取組の方向性	分野3 動く・出かける	【第2回懇談会】 スクリーンタイムが1日5時間を超えると学習に影響を与えると聞いています。健康はもちろん大事ですが、保護者に啓発する際は、学習にも影響を与えることを伝えた方が響くと思います。また、ゲーム機やスマートフォンを持つ子供の割合が増える年齢に合わせて、保護者に啓発することができれば、影響を減らすことができるのではないかと思います。	小・中学校において、啓発に努めてまいります。
11		分野4 眠る・癒す	【第2回懇談会】 睡眠は、量も質も重要なため、次期計画策定の際には、睡眠時間だけでなく質に関する指標の設定についても検討が必要です。	睡眠については、量・質ともに重要と認識していることから、次期計画策定時の参考とさせていただきます
12			【第2回懇談会】 自己肯定感のある子供の割合は増加しているにも関わらず、不登校の子供が増えていることを、どう考えればよいでしょうか。保護者は何も問題がない時は孤立感を感じることは少ないですが、何か問題が起こった時に孤独を感じるが多いため、保護者を孤立させないための支援に取り組んでいけたらと考えています。	不登校の要因は様々ですが、自己肯定感が高いが、他者との関係で悩みを抱える児童・生徒が増加していると分析しています。引き続き、児童・生徒や保護者に対して、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーによる支援の充実に努めてまいります。
13			【第2回懇談会】 「自己肯定感のある子供の割合」の増加には、こういった取組が影響しているものと考えていますか。	多面的・多角的に考え、議論する「道徳科」の授業を道徳教育の要とし、子供の豊かな情操や道徳心を培い、正義感、責任感、自他の生命の尊重、他者への思いやり、自己肯定感、人間関係を築く力、社会性等、学校教育全体を通じて豊かな心を育んできた成果だと考えます。

No.	該当箇所		所管室課回答	所管室課	
	項目	委員意見			
14	分野5 歯と口腔の健康	【第1回懇談会】 取組の評価指標の歯科健診受診率は、基準値で55.7%となっていますが、実際、吹田市歯科健診の受診率は20%もないため、吹田市歯科健診の受診を積極的に促していただければと思います。	取組の評価指標の歯科健診受診率は、市が実施する歯科健診以外を受診した方も含めていることから、市が実施する歯科健診を受診した方の割合である吹田市歯科健診の受診率と乖離があります。 生涯を通じた歯科健診の受診が重要であると考えており、引き続き、あらゆる機会を通して、吹田市歯科健診の周知に努めてまいります。	成人保健課	
15		【第1回懇談会】 昔に比べ、歯並びやかみ合わせに対する意識というのは高まっていると感じています。かみ合わせ等、歯列に関する指標を設定してはどうでしょうか。	歯並びやかみ合わせは、う蝕や歯周病の予防の観点から重要ですが、遺伝的な要因も大きいこと、年齢とともに変化することから、指標として設定するのは難しいと考えます。 また、改善のための治療の大半が自由診療でもあることから、市として啓発等の取組を進めることが難しいと考えています。 市としては、口腔機能に対する関心を高め、自分の口腔状態に合った口腔ケアやオーラルフレイル予防の啓発に、引き続き、注力したいと考えています。	すこやか親子室 成人保健課	
16	第3章 中間見直し(中間評価)の結果 3 分野別の評価と今後の取組の方向性	分野6 たばこ	【第1回懇談会】 「20歳未満の人の喫煙防止のための教育」という言葉に違和感があります。子供の頃からたばこが健康に及ぼす影響について伝えるという意味だと理解していますが、20 歳未満の喫煙は法律で禁止されていることから、趣旨からすると「20歳未満の人への教育」という記載が適切ではないでしょうか。	「20歳未満の人の喫煙防止のための教育」から、「20歳未満の人への教育」に修正します。	健康まちづくり室
17			【第1回懇談会】 小・中学校の薬物乱用防止教室において、アンケートを実施した結果、水蒸気が出る加熱式たばこや、フルーツのような味がするたばこには興味があるといった回答があったことから、今後の啓発においては、加熱式たばこについても働きかけが必要と感じています。	加熱式たばこを含めた禁煙、受動喫煙防止の啓発を実施しています。 啓発内容については、小・中学校の薬物乱用防止教室で実施したアンケートの結果や社会情勢を踏まえ見直す等、柔軟な対応に努めてまいります。	健康まちづくり室 学校教育室
18			【第1回懇談会】 スモークフリー協賛機関一覧を見ると医療機関が多く、事業者の登録が少ないです。スモークフリー協賛機関に登録するとインセンティブが発生するといった仕組みがあれば、事業者も登録しやすいのではないかと思います。	金銭的なインセンティブをすぐに導入することは難しいことから、スモークフリー協賛機関に登録するメリットを事業者に感じてもらえるよう、周知方法等について検討します。	健康まちづくり室
19			【第1回懇談会】 分煙も大事ですが、喫煙者数を減らすことに、より重点を置くべきだと思います。喫煙者が体の不調等を感じて医療機関を受診した際に、たばこによる健康への影響を伝えることは、良いきっかけづくりになると思います。	スモークフリーの取組を推進する上で、喫煙者数を減らすことが重要と考えています。吹田市各種健診や歯科健診、がん検診等の取組を通して、吹田市医師会・歯科医師会・薬剤師会と連携し、タイムリーに医療専門職から禁煙を勧めていただけるような体制整備に努めてまいります。	健康まちづくり室 成人保健課

No.	該当箇所		所管室課回答	所管室課	
	項目	委員意見			
20	第3章 中間見直し(中間 評価)の結果 3 分野別の評価 と今後の取組の方向性	分野7 アルコール	【第1回懇談会】 海外のカフェやバーでは、グラスに純アルコールのラインが引いてあり、一定量以上を飲むと病気のリスクがあるといったことを、視覚的に啓発しています。また、休肝日等を記録するカレンダーアプリというのがあるため、そういったツールを活用するのも良いと思います。	健康に配慮した飲酒に関するガイドラインに基づき、啓発方法の見直しに取り組んでいます。 アルコール関連問題啓発週間等の機会を活用し、依存症に関する正しい知識の普及と啓発を行い、アルコールに関する悩みを抱える本人や家族等が相談しやすい地域づくりに努めてまいります。	成人保健課 地域保健課
21		分野7 アルコール	【第1回懇談会】 在宅勤務を導入する企業の増加、人々が集まる機会の減少等、生活様式の変化により手軽にストレスを発散する方法として、飲酒を選ぶ人が増えているのではないかと推察しています。また、アルコール以外にもゲーム等への依存が課題になってくると懸念しています。ストレス発散として 飲酒以外の行動がとれるような取組を進めていく必要があると思います。	健康に配慮した飲酒に関するガイドラインに基づき、啓発方法の見直しに取り組んでいます。 すでにアルコール依存症を始めとした薬物・ギャンブル・ゲーム等依存症となっている方については、専門医療機関の紹介や自助グループへの参加を促すなど依存症からの回復を助ける支援を行っていきます。	成人保健課 地域保健課
22		分野7 アルコール	【第1回懇談会】 若い人が飲酒する場面をテレビやCMで目にする機会が多いと感じています。たばこにも共通しますが、飲酒、喫煙が当たり前となる雰囲気ではなく、飲まないという選択が当たり前になるよう働きかけることが大事だと思います。	健康に配慮した飲酒に関するガイドラインに基づき、啓発方法の見直しに取り組んでいます。 また、大学や高校等との連携を通じて、若い世代に対して、アルコールが健康に及ぼす影響について、正しい知識を普及、啓発します。	成人保健課 地域保健課
23	第3章 中間見直し(中間 評価)の結果 3 分野別の評価 と今後の取組の方向性	分野8 診てもらう	【第2回懇談会】 かかりつけ医制度自体には賛成ですが、かかりつけ医を認定する、義務付けることには反対です。かかりつけ医を持つことが義務とならないよう、アンケート調査時には、かかりつけ医の定義が分かるように書くことが大事だと思います。	医療機関へのフリーアクセスを前提に、市民が必要な時に必要な医療を受けられる体制の確保が重要であると考え、かかりつけ医の定義やかかりつけ医を持つことのメリットについて、広く啓発を行っています。 また、アンケート調査では、かかりつけ医の定義を明記しており、今後の調査時も明記するよう心掛けます。	保健医療総務室
24		分野8 診てもらう	【第2回懇談会】 がん検診は法的義務がなく、受診を勧めている会社もあれば、個人に任せている会社もあります。まずは、がん検診を受診する必要があることを知ってもらうことが大事であり、子供の頃からがんや健康に関する教育を深めてはどうかと思います。	小・中学校では、保健の授業でがんや健康に関する教育を実施しています。 また、子供の頃からの健康に関する啓発の一環として、小学生を対象とした「キッズ健康サポータ教室」を実施しています。 生涯を通じて、その年代、性別に合わせた健(検)診受診等の必要性を引き続き、啓発してまいります。	成人保健課 学校教育室